

SJR福祉カレッジ 介護福祉士実務者研修シラバス

科目	人間の尊厳と自立			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
5時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 1巻 第1章 人間の尊厳と自立 第1節 人間の多面的な理解と尊厳（P2～11） 第2節 自立の支援（P12～23） 第3節 人権と尊厳（P24～45）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 1巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	社会の理解 I			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
5時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 1巻 第2章 介護保険制度の理解（社会の理解 I） 第1節 介護保険制度創設の背景と目的（P50～59） 第2節 介護保険制度の基礎的理解（P60～89） 第3節 介護保険制度における専門職の役割（P90～96）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 1巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	社会の理解Ⅱ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
30時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	● 家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる ● 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得する ● 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得する ● 障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる ● 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 1巻 第3章 社会のしくみの理解（社会の理解Ⅱ） 第1節 社会と生活のしくみ（P102～123） 第2節 地域共生社会の実現に向けた制度や施策（P124～131） 第3節 社会保障制度（P132～183） 第4節 障害者総合支援制度（P184～213） 第5節 介護実践にかかわる諸制度（P214～261）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 1巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	介護の基本Ⅰ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
10時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	● 介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解する ● 個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する ● 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守することができる			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 2巻 第1章 介護福祉士と介護の考え方（介護の基本Ⅰ） 第1節 介護福祉士の役割と機能（P2～15） 第2節 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開（P16～37） 第3節 介護福祉士の倫理（P38～57）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 2巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	介護の基本Ⅱ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
20時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる ●チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得する ●リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得する ●介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 2巻 第2章 介護福祉士による介護実践（介護の基本Ⅱ） 第1節 介護を必要とする人の生活の理解と支援（P62～77） 第2節 介護実践における連携（P78～91） 第3節 介護における安全の確保とリスクマネジメント（P92～109） 第4節 介護従事者の安全（P110～124）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 2巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	コミュニケーション技術			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
20時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●本人・家族との支援関係を構築し、意志決定を支援することができる ●利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる ●チームマネジメント（組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等）に関する知識を理解し、活用できる ●状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 2巻 第3章 コミュニケーション技術 第1節 介護におけるコミュニケーション（P130～137） 第2節 介護におけるコミュニケーション技術（P138～151） 第3節 介護現場における利用者・家族とのコミュニケーション（P152～185） 第4節 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション（P186～214）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 2巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	生活支援技術Ⅰ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
20時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解する ●ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる ●自立に向けた生活支援技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を習得している ●居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 2巻 第4章 自立に向けた生活支援技術の基本（生活支援技術Ⅰ） 第1節 生活支援とICF（P220～227） 第2節 居住環境の整備と福祉用具の活用（P228～239） 第3節 移動・移乗の生活支援技術の基本（P240～269） 第4節 食事の生活支援技術の基本（P270～279） 第5節 入浴・清潔保持の生活支援技術の基本（P280～295） 第6節 排泄の生活支援技術の基本（P296～305） 第7節 着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術の基本（P306～323） 第8節 家事援助の基本（P324～353）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 2巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	生活支援技術Ⅱ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
30時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●「環境整備」「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「休息・睡眠」「人生の最終段階における介護」「福祉用具等の活用」のそれぞれについて、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 2巻 第5章 利用者の心身の状況に応じた生活支援技術（生活支援技術Ⅱ） 第1節 環境整備と福祉用具の活用（P360～363） 第2節 移動・移乗の生活支援技術（P364～387） 第3節 食事の生活支援技術（P388～397） 第4節 入浴・清潔保持の生活支援技術（P398～405） 第5節 排泄の生活支援技術（P406～425） 第6節 着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術（P426～435） 第7節 休息・睡眠の生活支援技術（P436～449） 第8節 人生の最終段階における介護の生活支援技術（P450～468）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 2巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	介護過程Ⅰ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
20時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●介護過程の目的、意義、展開等を理解する ●介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う ●チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 3巻 第1章 介護過程の基礎的理解（介護過程Ⅰ） 第1節 介護過程の意義と目的（P2～7） 第2節 介護過程の展開（P8～31） 第3節 介護過程とチームアプローチ（P32～48）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 3巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	介護過程Ⅱ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
25時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 3巻 第2章 介護過程の展開の実際（介護過程Ⅱ） 第1節 介護職による介護過程の進め方（P52～71） 第2節 介護過程の実践的展開（P72～73） 第3節 施設で暮らす高齢者の介護過程（P74～95） 第4節 在宅で暮らす高齢者の介護過程（P96～127）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 3巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	介護過程Ⅲ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
45時間	スクーリング学習	必修	専任教員	5ヶ月目～6ヶ月目
授業の目標	●実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる ●知識、技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる ●介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる ●知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 3巻 第3章 介護過程の展開の実践（介護過程Ⅲ）（P132～220） 事例を用いたグループワーク・ロールプレイ 介護技術の評価			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 3巻			
評価方法・基準	実技評価7割以上で合格（7割未満は再度評価を実施）			

科目	こころとからだのしくみⅠ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
20時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 4巻 第1章 介護に関連するからだのしくみ（こころとからだのしくみⅠ） 第1節 移動・移乗に関連するからだのしくみ（P2～7） 第2節 食事に関連するからだのしくみ（P8～15） 第3節 入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ（P16～23） 第4節 排泄に関連するからだのしくみ（P24～29） 第5節 着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ（P30～37） 第6節 休息・睡眠に関連するからだのしくみ（P38～43）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 4巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	こころとからだのしくみⅡ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
60時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得する ●生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得する ●身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 4巻 第1章 心身の構造・機能と介護における観察のポイント (こころとからだのしくみⅡ) 第1節 人間の心理 (P48～65) 第2節 人体の構造と機能 (P66～101) 第3節 移動・移乗における観察のポイント (P102～109) 第4節 食事における観察のポイント (P110～117) 第5節 入浴・清潔保持における観察のポイント (P118～125) 第6節 排泄における観察のポイント (P126～133) 第7節 着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント (P134～143) 第8節 休息・睡眠における観察のポイント (P144～151) 第9節 人生の最終段階のケアにおける観察のポイント (P152～174)			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 4巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格 (7割未満は再度試験・評価を実施)			

科目	発達と老化の理解Ⅰ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
10時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解する ●老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 4巻 第3章 老化に伴うこころとからだの変化 (発達と老化の理解Ⅰ) 第1節 こころの変化と日常生活への影響 (P182～189) 第2節 からだの変化と日常生活への影響 (P190～215)			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 4巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格 (7割未満は再度試験・評価を実施)			

科目	発達と老化の理解Ⅱ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
20時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解する ●老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解する ●高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 4巻 第3章 老年期の発達、成熟と健康（発達と老化の理解Ⅱ） 第1節 人間の成長・発達（P222～231） 第2節 老年期の発達・成熟と心理（P232～241） 第3節 高齢者に多くみられる症状・疾病等（P242～288）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 4巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	認知症の理解Ⅰ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
10時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解する ●認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する ●認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 4巻 第5章 認知症の基礎的理解（認知症の理解Ⅰ） 第1節 認知症ケアの理念と視点（P294～299） 第2節 認知症による生活障害、心理・行動の特徴（P300～311） 第3節 認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本（P312～327）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 4巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	認知症の理解Ⅱ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
20時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解する ●認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる ●地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 4巻 第6章 認知症の医学的理解と支援の実際（認知症の理解Ⅱ） 第1節 医学的側面からみた認知症の理解（P332～359） 第2節 認知症の人への支援の実際（P360～387）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 4巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	障害の理解Ⅰ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
10時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解する ●障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する ●障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 4巻 第7章 障害の基礎的理解（障害の理解Ⅰ） 第1節 障害者福祉の理念（P392～405） 第2節 障害による生活障害、心理・行動の特徴（P406～429） 第3節 障害児のある人や家族へのかかわり・支援の基本（P430～437）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 4巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	障害の理解Ⅱ			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
20時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得する ●障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる ●地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 4巻 第8章 障害の医学的理解と支援の実際（障害の理解Ⅱ） 第1節 医学的側面からみた障害の理解（P444～473） 第2節 障害の特性に応じた支援の実際（P474～487）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 4巻			
評価方法・基準	通信課題7割以上で合格（7割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	医療的ケア			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
50時間	通信学習	必修	専任教員	1ヶ月目～4ヶ月目
授業の目標	●医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解する ●医療的ケアに関連する法制度や倫理等を理解する ●感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 5巻 第1章 医療的ケア実施の基礎 第1節 医療的ケア（P2～32） 第2節 安全な療養生活（P33～53） 第3節 清潔保持と感染予防（P54～68） 第4節 健康状態の把握（P69～85） 第2章 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） 第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論（P92～129） 第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説（P130～154） 第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順） 第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論（P160～189） 第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説（P190～213）			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 5巻			
評価方法・基準	通信課題9割以上で合格（9割未満は再度試験・評価を実施）			

科目	医療的ケア（講義・演習）			
時間数	授業種類	必修・選択	授業担当者	配当時期
13時間	スクーリング学習	必修	専任教員	6ヶ月目
授業の目標	●医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する			
テキスト 該当ページ	介護福祉士実務者研修テキスト 5巻 第4章 演習 第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き（P218～239） 第2節 経管栄養のケア実施の手引き（P240～273） 第3節 救急蘇生法の手引き（P274～294） 喀痰吸引の実施演習（口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上） 経管栄養の実施演習（胃ろう、経鼻経管栄養を各5回以上） 救急蘇生法演習（1回以上） 医療的ケア全体のプロセス評価			
使用テキスト	中央法規出版 介護福祉士実務者研修テキスト 5巻			
評価方法・基準	喀痰吸引（口腔、鼻腔、気管カニューレ内部）、経管栄養（胃ろう、経鼻）それぞれの実施演習を各5回以上手順通りに成功し、かつ累積成功率が7割以上で合格			